

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	太岳抗日根拠地における群衆英雄運動：前線根拠地における英雄の表象
Author(s)	李, 芸
Citation	アジア社会文化研究, 24 : 29 - 54
Issue Date	2023-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/53969
URL	https://doi.org/10.15027/53969
Right	
Relation	



太岳抗日根拠地における群衆英雄運動 —前線根拠地における英雄の表象—

李 芸

はじめに

太岳根拠地は山西省の沁源、浮山などの 32 県、河南省の王屋、濟源、孟県を含む、同蒲路と汾河以東、白晋路以西、黄河以北の三角地域である。太岳根拠地は四つの専署に分けられ、1946 年時点での人口は約 280 万である¹。1937 年 10 月、中国共産党中央委員会（以下、中共中央）北方局、八路軍総司令部は中央軍事委員会と毛沢東の指示に基づき、山西省を拠点に遊撃戦争を行うことを華北地域における中共の中心的な任務に定め、129 師団が太行山を基盤として冀豫晋抗日根拠地を樹立し、同時に冀豫晋省委（以下、省委）が成立した。この根拠地が後の太岳根拠地と太行根拠地の基礎となるが、太岳根拠地成立の過程は以下の通りである。同年 11 月、太原が陥落すると、冀豫晋省委と 129 師団が晋中、晋東南、冀西、豫北地域へ進駐し、地方武装と党組織の建設に力を注いだ。1938 年 2 月、太岳地域に沁県弁事拠が成立し、武郷県以南の各県を管轄した。同年 7 月、沁県弁事拠を基礎として太岳特別区委員会（以下、特委）が成立し、冀豫晋根拠地の中西部を管轄した。同年 8 月 19 日、中共中央書記部の通知により、冀豫晋省委は中共晋冀豫区党委に呼称を変えた。1939 年 4 月、各地の特委が地方委員会（以下、地委）に名称を変更し、太岳特委は中共晋冀豫区太岳地委と改名した。1940 年 1 月、日本軍の攻撃により、晋冀豫区が太岳、太南、晋豫、太北四つの地域に分割され、北方局は上記の四つの地域にそれぞれ区党委を設立し、太北に新たな晋冀豫区党委を建設することを決定し、太岳区委が成立した²。同年 5 月には太岳軍区が成立した³。次いで 1941 年 9 月に晋冀魯豫辺区第一回臨時参議会が開かれ、晋冀魯豫辺区政府及び太岳行署が成立した。1942 年 5 月の中条

戦争の勝利を勝ち取り、根拠地を建設するため、中共はソ連のスタハノフ運動に倣って 1939 年に労働英雄の制度を設け、「人民生産奨励条例」によって毎年功労の顕著な者を表彰してきた。陝甘寧辺区では、このような労働英雄運動を生産運動の中心的な任務として 1943 年 1 月から本格的に発動させている⁵。太岳根拠地においては、1940 年から既に英雄の表彰が始まったが、1943 年になると陝甘寧辺区の労働英雄運動の影響を受けるようになった。晋西北根拠地や陝甘寧辺区と異なり、太岳根拠地の運動は「群衆英雄運動」と称されていたが、それは前線である同根拠地が労働英雄だけでなく、殺敵英雄をも表彰していたからである。

中共根拠地の労働英雄運動に関する研究は、既に多く存在する。主に労働英雄運動の流れ、社会改造における役割、労働英雄個人の履歴、労働英雄と基層幹部の関係などが研究されてきた⁶。最近のいくつかの研究は、1943 年の大生産運動以前の女性労働英雄の表彰に言及するようになっているが⁷、近年に至るまで多くの研究が労働英雄運動は陝甘寧辺区から始まり、次第に他の根拠地へ広がっていったことを前提としている。しかし、晋西北根拠地の労働英雄運動を検討した筆者の旧稿では、基層からの序列化した英雄選抜、民俗利用など、陝甘寧辺区の労働英雄運動の特徴と考えられていた運動の手法が、晋西北根拠地において先行して行われていたことを明らかにし、また、陝甘寧辺区とは異なる晋西北根拠地の運動の特徴などを確認した⁸。小論では、より不安定な前線の根拠地の群衆英雄運動を分析することで、晋西北根拠地や陝甘寧辺区に見られない特徴を明らかにしたい。また、前線の根拠地も含めた特徴を理解することで、労働英雄運動その他の模範頭彰運動の全体像が明らかになり、これら全体像を把握することで中華人民共和国に継承される英雄模範頭彰運動⁹の特徴を理解することにも役立つであろう。

1. 1940—1943 年の群衆英雄運動

(1)労働英雄の表彰

中共が 1940 年 8 月から 12 月にかけて発動した百团大戦を受けて、1941 年以降、日本軍による根拠地に対する掃蕩が頻繁に行われるようになった。その上、国共関係が悪化して国民政府からの援助が中断し、根拠地の経済状

況はさらに厳しくなり、多くの農具と耕牛が失われて民衆の生産意欲は低下した。辺区政府は春耕の重要性を宣伝し、労働英雄を表彰し、民衆の生産意欲を高めることが重要であると認識し、男性労働力のみならず、女性と児童も農業生産に参加することが求められ、労働英雄の育成が始まった¹⁰。労働英雄は「春耕組」によって決められ、「春耕委員会」に審査され、労働英雄に選ばれると、物質的、精神的な奨励が与えられることになった¹¹。

1942年春、各抗日救国連合会（以下、救国会）が春耕競争を始め、10人の労働英雄の選出を決定した¹²。青年救国会も5月1日から7日を「労働英雄突撃週」と定め、青年労働英雄を育成しようとしていた¹³。

1942年3月31日、太岳根拠地では沁源騾馬大会（騾馬大会は家畜の売買を中心とした大規模集市）と同時に烈士追悼大会を開き、それを機に労働英雄の表彰式を行っている。このような労働英雄運動における集市を利用した民俗利用は、陝甘寧辺区より早く、晋西北とほぼ同時期である。この大会において、安澤県一区出身の尚恒初が第一位の英雄となり、牛一頭を賞品として授与された。彼は50歳で、家族全員が生産に熱心であった。1941年に彼は数十畝の土地を耕作し、6畝の荒地も開墾した。自分の土地を耕作した他、抗属（出征兵士の家族）の生産を熱心に手伝った。第二位は女性労働英雄の李某で、彼女は57歳であったが、自力で10畝の土地を耕作した。第三位は沁源五区出身の杜某で、彼は労働英雄だけでなく、模範幹部でもあり、村の生産委員を担い、村の生産を積極的に推し進めていた。第四位は張明元であり、彼は家畜を持っていないが、互助を通じて150畝の土地を耕作した¹⁴。烈士追悼大会において英雄の表彰を行うのはまさに前線の特徴を表わしたものと見える。そして、個人の労働英雄を評価するだけでなく、全員が生産に尽力した模範的な家族も「模範農家」として表彰された¹⁵。また、後述するように、女性も含む様々な労働力を組織して生産を向上させるという全民抗戦が提唱されていた。

農業だけでなく、工業においても英雄の育成が開始された。1941年に工人救国会の区の分会は生産競争を展開し、労働英雄の選抜を予定していた¹⁶。そして、双十節開催予定の工農業生産展覧会に向けて、工場と農村の労働英雄の選抜と、生産展覧品の収集が行われた¹⁷。

(2)葉炎明¹⁸運動

陝甘寧辺区と比べて、前線地域の太岳根拠地は生産を推し進めるとともに、戦争英雄を積極的に評価し、独自の歩みが見られる。1940年1月、中共中央は「關於在山東、華中發展武装建立根拠地的指示」を發表し、既に人民武装の人数が正規軍と地方軍の十倍に当たるべきだと強調している¹⁹。太岳根拠地においても、同様に民兵組織の強化が図られたものと考えられる。

葉炎明は綿上県綿上村出身で、貧しい農民家族に生まれ、地主の羊を放牧してかろうじて生活を維持していた。1939年に中共に入党し、日中戦争中に民兵に参加して綿上村の民兵隊長を担い、積極的に敵と戦っていた。1940年から日本軍が燼滅作戦を実施し、根拠地に対して残酷な掃蕩を行った。旧暦12月に日本軍が再び綿上村に侵入した際、葉炎明は怒りを抑えられず、武器を持たずに母親の杖で一人の日本兵を殺した。太岳行署は1941年の元宵節（新暦2月10日）に殺敵英雄大会を開き、葉炎明を「殺敵英雄」として評価して2丁の銃を彼に奨励品として与えた。そして、太岳区党委は全区に葉炎明運動を展開することを決定した²⁰。

『太岳日報』において、葉炎明の事績が大いに宣伝された。彼は片手に鋤、もう片手に銃を持ち、揺るがず勇敢に根拠地を守る群衆英雄だと評価された²¹。記事において、葉炎明の民兵の身分は敢えて強調されておらず、全ての民衆が敵と戦う全民抗戦を推し進めようとしたと考えられる。綿上県三区では、春耕を守るためには武装を強化しなければならないと強調され、葉炎明運動が始まった²²。農業だけでなく、工業においても片手に斧、片手に武器を持つ葉炎明式の労働者英雄を育成しようと呼びかけた²³。

1941年春からの日本軍の治安強化運動にともなう根拠地の危機を契機として、中共は武装組織の改編に着手し、主力軍の精兵化と地方軍、人民武装の強化を進めていった²⁴。1941年11月7日、中共中央は「中央革命軍事委員会關於抗日根拠地軍事建設的指示」を發表した。同指示において、地方軍と人民武装の強化が強調され、山地根拠地では主力軍と地方軍の比が2:1であり、平原根拠地では1:1であり、極端に困難な地域では主力軍を地方軍化すると決定した。また、人民武装は大多数の民衆を含め、中核である民兵、模範自衛隊及び青年自衛隊が主力軍と地方軍の和を超えるべきであるこ

と、各根拠地では生産に携わらない専従幹部が総人口の 3%を超えないようにすることなどが指示され、大衆に依拠した民兵組織の強化が目指されていた²⁵。

1941 年の抗戦建国記念日において、沁県では民兵検閲大会を開き、婦女自衛隊を含めて約 1,000 人の民兵が検閲を受けた。会議において、軍区代表は葉炎明に学び、労働力と武力を結合しようと呼びかけた²⁶。1942 年 4 月 3 日の社論においても労働力と武力の結合が強調された²⁷。太岳根拠地は 1941 年に既に「労働力と武力の結合」という言葉を使っており、管見の限り、この語の使用は太行と晋西北根拠地の報道より早い、民兵組織と農業互助組を結合させる方法の実践は、晋西北が最も早い²⁸。模範の名前を冠した運動が展開されるのも、やはり管見の限り太岳根拠地が初めてである。

日本軍の掃蕩において、部隊と民衆の中に多くの抗日英雄が出現した。1941 年 12 月に太岳行署、軍区及び各救国会は、全区群衆英雄大会を五日間開催し、民兵の仕事と英雄の「殺敵経験」を報告して英雄を表彰し、同時に抗日烈士記念碑の竣工式を行うこととした²⁹。1941 年 11 月 28 日、靈石で群英大会が開かれ、200 人余りが出席した。大会において、英雄 12 人が敵との戦闘経験を語った³⁰。12 月 12 日から 14 日にかけて、沁源騾馬大会と同時に全区の群英会が開かれ、葉炎明などの 27 人の群衆抗日英雄が出席した。会場には「多くの葉炎明式の群衆英雄を作ろう」というスローガンが掲げられた³¹。

1940 年から 1943 年にかけて前線の太岳根拠地において展開された群衆英雄運動では生産も当然重視されたが、比較的安定した陝甘寧辺区と比べ、民兵組織を強化する方針に従い、勇敢に敵と戦って根拠地を守る戦争英雄がより評価されたと考えられる。

2. 女性労働英雄の表彰

(1) 女性労働英雄

中国の伝統的な価値観では、男女にはそれぞれ天から与えられた自然な職分があり、つまり「男耕女織」が求められる。また、華北地域では人口が多く、一人当たりの耕地面積が少ない。このような状況も、「男耕女織」の性別

役割分業を支えていた。1930年代に入り、人口の増加により、一人当たりの耕地数が3畝となり、半分近く（河北40%、山東49.7%）の農家の耕地面積が10畝以下に減少した。1930年代の農業技術を考えると、一人の成年男性は約15-30畝の土地を耕作できる。畑作を中心とする華北では、家庭全ての労働力を農作業に投入しても、生産量がそれほど上がらず、インボリューション³²の現象が起こる。農業だけで家族の生計を維持できない場合は、余剰労働力（女性、児童）を紡織などの手工業に投入し、収入を増やそうとする³³。

しかし、戦争で男性が軍隊に入隊するなどして労働力が減少すると、各根拠地では早くから女性の生産参加が提唱され、農業に従事する者も含めた女性労働英雄が顕彰されるようになった。1938年5月、鄧穎超、孟慶樹は陝甘寧の女性運動の概況を報告し、全辺区の農村女性の半分が既に生産に参加し、4,000垧（一垧は陝甘寧、晋西北地区では3畝）あまりの荒地を開墾し、植樹の面でも大きな成果を上げたと言及した。また、開墾に積極的に参加した二人の女性英雄も言及された³⁴。陝甘寧では、1938年から既に女性の労働参加が顕彰されるようになったと考えられる。1939年2月に中央婦委が各領域の女性英雄と模範、及び女性の仕事を支える男性を表彰するよう呼びかけた。ただし、資料が不足しているため、その実態を明確にできない。1940年の国際婦人デーに大会が開かれ、「模範婦女」と「模範婦孺（女性と子供）工作者」386人を奨励した³⁵。1940年の表彰名簿から見ると、これらの女性は農民ではなく、学校、政府機関、工場の幹部や職員であった³⁶。1940年以降は、ソビエト革命期以来の男女の生理上の差異を無視する政策が変更され、女性に重い肉体労働をさせなくなった³⁷。女性は室内の日常の仕事を任されるようになり³⁸、女性の農業参加は顕彰されなくなった。1943年2月26日、「關於各抗日根拠地目前婦女工作方針的決定」（以下、「決定」）が発表され、女性の生理状況と家庭事情を考え、女性は家庭を離れず、個人生産を家庭の生産計画と結びつける必要性が強調され、紡織が提唱されるようになった³⁹。

太岳根拠地が分離する以前の晋冀豫区でも女性の労働参加が早く見られる。許淑賢によれば、武郷県（後に太行根拠地に所属）では1939年国際女性デーにおいて、晋東南婦救総会常務委員浦安修が小規模の紡織工場を建設し

たりし、村ごとに女性を組織することを呼びかけ、女性を生産に動員した。1939年7月、八路軍総司令部と中共北方局婦委が武郷に到着し、朱徳が女性の生産を組織しようと呼びかけた。それに応じて、女性は昼に農耕、夜に紡織を行い、積極的に生産に参加するようになった⁴⁰。

中共根拠地における女性労働英雄について検討した張瑋・王瑩の論文は、中共による女性の生産参加奨励の契機を、1943年2月26日に発表された中共中央「決定」に求めたが⁴¹、各根拠地ではこれ以前から女性の労働参加が奨励されていた。整風運動を通じて毛沢東の権威が確立し、中共の歴史は彼の活動を中心に叙述されるようになり、労働英雄運動の叙述もまた、毛の指導した1943年の大生産運動を起点として描かれるようになったのである。

後方の陝甘寧と比べ、前線の太岳根拠地では、男性が軍隊に入隊した他、敵に徴用、殺害され、男性労働力が減少しており、女性の労働参加がより重視されたと思われる。沁源县を例にすれば、1946年時点で人口が85,000人であり、日中戦争期に10,269人が殺され、3,794人が負傷して障害を負い、2,200人が捕虜になり、21,325人が各種の病気にかかった。牛、騾馬、驢馬の損失は21,130頭に上った⁴²。太岳根拠地全体では、1937年から1945年までで総人口の4.5%にあたる145,248人が敵に殺された（晋西北では2.9%）⁴³。このような状況の下、労働力の不足に際して、女性の農業生産への参加が推奨されるようになった。

太岳根拠地では、1940年、積極的に戦争に協力した張国栄と農業生産に参加していた韓芝蘭などの女性英雄が顕彰された。張国栄は沁県出身であり、よく人を率いて白晋鉄道（祁県白圭から晋城まで）を破壊したり、電線を切断したり、橋を焼いたりして、女性の戦争協力の記録を樹立した。韓芝蘭は一年中休まずに生産に尽力していた⁴⁴。女性のゲリラ戦への参加が評価されたのは前線の特徴だと考えられる。太岳根拠地だけでなく、他の根拠地においても女性民兵の活躍が見られる。1941年の統計によると、各根拠地で活動していた女性民兵は209万人に上った⁴⁵。

1941年には多くの女性が春耕に参加し、政府は女性労働英雄の条件を三つ設けた。一つ目は農業生産を手伝い、二つ目は抗属の生産を支援し、三つ目は兄弟に生産を促すことである⁴⁶。抗属の生産支援は、戦時動員の負担を社

会が支えようとするものであるが、特に女性が主体となる抗属家庭の支援において、女性独自の役割が注目されたものと思われる。また、「兄弟に生産を促す」という条件によって、女性の家庭での位置づけを利用して生産の促進が図られた。伝統的な価値観では女性は家族親睦、勤勉節約、育児などの役割が求められており⁴⁷、女性労働英雄の条件もそれに合わせたものと思われる。常明秀は沁源一区崔庄村の婦女救国会会員であり、勤勉で婦女互助隊長に選ばれた。彼女は女性を率い、除草したり肥料を運んだりして積極的に農業生産に参加し、労働英雄に選ばれた⁴⁸。

1944年春、趙淑英は綿上県の労働英雄大会において模範婦女として表彰された。以前は家族から見下されていたが、一生懸命に働き、舅姑を敬い、村の仕事に積極的に参加するようになってから、家族の中での地位も社会的地位も大きく向上し、婦女救国会の秘書にも選ばれた。この一年の間に、彼女は農作業の技術を学び、県労働英雄大会で「牛の足一本」（四人で牛一頭を贈られた）、糸車、鉛筆、メダルを授与された。1944年の春耕において、彼女は前年の経験を活かし、村の女性を変工に参加させるべく動員を進めた⁴⁹。

1944年4月16日、沁源県一区の労働英雄座談会において、18歳の胡讓牛が第一位の英雄に選ばれ、驢馬一頭を得た⁵⁰。胡讓牛の夫は1942年8月、掃蕩中に日本軍に捕えられ、消息が途絶えた。当時15歳の胡讓牛は生活の重荷を担い、農作業に参加するようになった。彼女は農作業に尽力し、70畝の山地で35.5石の食糧を収穫し、公糧をもきちんと納めた⁵¹。彼女は自ら積極的に農作業に参加するだけでなく、村全体の生産を推進するのに大きな役割を担っていた。

以上のように、女性は家を出て徐々に農業生産に従事するようになった。胡讓牛の住む沁源県は太岳根拠地の中心に位置し、1942年10月に日本軍が同県を掃蕩して駐在するようになった。日本軍の残酷な掃蕩に直面して、民衆のナショナリズムが高まり、軍隊に入隊した者が7,563人に上り、総人口の8.5%、労働力の49.5%を占めた⁵²。男性の不在に際して女性の農業生産を推進するため、沁源は胡讓牛を区の第一位の農業労働英雄として表彰したと考えられる。また、胡讓牛が戦争の犠牲者であり、救済されるべき対象でありながら、自力で生産に参加して困難を克服し、模範となるという構造が確

認できる。中共は経済的な自立を宣伝して「女性解放」⁵³を進めた一方で、女性を戦争に動員するようになった。中共根拠地においても、戦時動員が女性の社会進出を促すという状況が生じていたのである。

(2)弱者の模範、革命の模範

前線である太岳根拠地においては、一般的な英雄が表彰された他、子供、抗属、荣誉軍人（傷痍軍人）などが表彰され、全民抗戦を推進する状況が確認できる。

劉顯徳は 10 歳であり、二人の兄弟がいた。彼らは田畑に水をまき、草取りをし、四日間で 4 畝の土地を耕作し、1941 年春、労働英雄に評定された⁵⁴。1943 年の春耕時、太岳行署は「春耕奨励弁法」を発表し、労働英雄を奨励し、民衆の生産意欲を高めようとしていた。その際、生産を動員し、肥料を田畑に送り、抗属の生産を手伝い、見張りに立つ児童が模範児童として顕彰されると言及した⁵⁵。13 歳で労働英雄に選ばれた張子香は、五人家族で、両親が病気で妹と弟が幼く、農作業を任された。1944 年の春耕において、彼女は 20 畝の土地を耕作し、民衆の議論を経て労働英雄に選ばれた⁵⁶。

1945 年元日に開かれた殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会において、沁源县出身の模範抗属李桂貞が表彰された⁵⁷。1946 年の初めには、沁源二区出身の劉秀英が抗属 25 戸の中から模範抗属に評定された。彼女は婦女救国会の生産主任を担い、女性幹部とよく話し合い、時局学習にも熱心であった。1944 年に彼女は沁源に駐在した日本軍を追い払った八路軍の姿を見て、夫に軍隊に入隊するよう説得した。同年 7 月に夫が入隊し、彼女は婦女を交工隊に組織して農作業をした。劉秀英は農作業のみならず、副業生産にも尽力した。8 月から 10 月までの三か月間で彼女は 10 斤の綿花を布に織り、1,200 元余りを稼いだ。秋収後、彼女はカボチャの種を集めて更に 450 元を稼いだ。このように、劉秀英は生産に尽力して政府と軍隊を擁護し、よく民衆に褒め称えられたという⁵⁸。前述の沁源县の例で明らかのように、前線の根拠地では出征兵士が多いため、抗属が多く、政府の負担を減らし、生活を維持するためには彼らを生産に動員する必要がある。その後、正規軍の拡大とともに、誰でも抗属となる可能性があるため、模範抗属の奨励を通して抗属を生産に動員することは更に重要だと思われる⁵⁹。

1944年春の綿上県の労働英雄大会では、荣誉軍人王金柱が特等労働英雄に選ばれ、驢一頭を授与された。王金柱は38歳の河北省出身者で、平型関戦役と百团大戦に参加し、拡兵連連長⁶⁰を務めた。彼は1942年に河南省輝県の戦闘で左目と右足を負傷し、二等傷痕荣誉軍人として退役した。退役してから、彼は雇農として働く一方で、土地を積極的に開墾した。体の不自由にもかかわらず、王金柱は1942年に14.5畝の荒地を開墾し、3.7石の食糧を収穫した。1943年の冬から翌年の春まで、彼は再び20.5畝の土地を開墾した。1944年、王金柱は15石の食糧を収穫し、民衆の開墾を推し進め、政府の救済糧を受給せず、公糧をきちんと納めるという目標を設定した⁶¹。国共内戦期における中共の荣誉軍人の対応を研究した丸田孝志によれば、荣誉軍人は政府に救済された一方で、荣誉軍人学校で引き続き革命に奉仕させる教育と訓練を受けていた。体の不自由にも関わらず、荣誉軍人は民衆のために働き続け、更なる自己犠牲が求められた。それは「人民に奉仕する」政権としての中共の権威を基層において支えるものとなった⁶²。王金柱は革命戦争において負傷して退役した。彼は政府と民衆の負担を減らすため、自力で生産に従事して民衆の困難を手伝い、公糧を納めており、中共が求める荣誉軍人像を体現しているといえる。

3. 陝甘寧辺区における労働英雄運動の手法の太岳根拠地への導入

(1) 陝甘寧辺区と晋西北根拠地の労働英雄運動

陝甘寧辺区では生産を発展させるため、他の根拠地に先駆けて1938年から展覧会を主要な形式として生産に尽力した者を奨励していた。1939年1月に辺区農産競賽展覧会、1940年1月に辺区第二回農工展覧会が開催され、多くの労働英雄が表彰された⁶³。

百团大戦以降の根拠地の困難を乗り越えるため、各根拠地は生産を呼びかけ、その中で晋西北根拠地が先駆的に労働英雄運動を展開した。1942年1月13日、晋西北労働英雄検閲及び生産建設展覧会が開かれ⁶⁴、同年12月12日には辺区第二回労働英雄検閲大会が開かれた。晋西北根拠地では中共根拠地で初めて全辺区規模を目指して労働英雄大会が開催され、基層から序列化した英雄選抜を行った。そして、二回の労働英雄大会において、廟会の雰囲気

気を演出したり、騾馬大会と結合するなど、民俗利用が明確に見られた。以上のことから見ると、1942年まで晋西北根拠地は陝甘寧辺区に先んじ、労働英雄運動の様々な取り組みが展開し、隣接した陝甘寧辺区に影響を与えた可能性が考えられる⁶⁵。

1943年になると、陝甘寧辺区は労働英雄の表彰を大衆運動にして大生産運動を展開するようになった。陝甘寧辺区の労働英雄には、晋西北の労働英雄運動の要素が見られる一方で、新たに変工互助が提起された。それは戦争で労働力、家畜、農具などが不足し、従来の小規模の私有経済では生産の発展を妨げるようになったためである。変工互助により、労働の効率と意欲が高まり、労働力を節約することができ、農業技術の向上と副業の発展にも役に立つと考えられた⁶⁶。変工互助は以前から存在したが、民衆の自発的なものであり、政府の指導はなかった⁶⁷。1943年末の辺区第一回労働英雄大会において、毛沢東は改めて互助の重要性を強調した⁶⁸。労働英雄の選抜においても互助が重要な条件の一つになった。1943年11月26日から12月16日にかけて開催された第一回辺区労働英雄大会において、185人の英雄が表彰され、呉満有、申長林、陳徳発、石明德、劉玉厚が特等労働英雄に選ばれた。彼らの事績から見ると、互助が重要な部分の一つだと考えられる。

呉満有は延安県柳林区二郷呉家棗園出身である。呉家棗園では土地革命以前、僅か4戸であったが、綏遠、河南からの難民が移住し、1943年には18戸、58人に増えた。政府の呼びかけに応じて、呉家棗園は旧暦2月25日に村民大会を開き、22人が出身地別で三つの変工隊を成立させることに合意した。呉満有が隊長を担当して各変工隊の問題を解決することとなった。呉満有の統計によると、1943年に全村が256.75石の食糧を収め、1942年の141.5石と比べると125.55石増加した。それは変工隊を組織して140垧の土地を開墾したからである。民衆が変工の長所を理解し、1944年には変工を更に進め、男性労働力だけでなく、女性、役畜も全て変工隊に組織することを決定した⁶⁹。

申長林は1943年春に政府の呼びかけに応じて民衆に変工を宣伝した。変工の長所と方法を説明すると、全村19戸の大多数が組織され、八つの変工隊が作られた⁷⁰。陳徳発は1943年春に安塞県群衆大会に出席し、その場で英

雄表彰を見ると、自分も英雄になろうと決意した。彼は自分の生産に尽力するだけでなく、14 戸の労働力と役畜を四つの変工組に組織し、生産量を高めた⁷¹。

(2)太岳根拠地の労働英雄運動

太岳根拠地では 1944 年以降、陝甘寧辺区の経験が紹介されて、変工互助を中心とした労働英雄の表彰が始まった。各地で代表を選出し、全区の大会を開く形式も陝甘寧辺区と同様に導入された。

1944 年春、安沢県において労働英雄の選抜が始まり、趙金林が第一位の英雄に選ばれた。彼は七人家族であり、息子と長工を含めて三人の労働力があつた。31 畝の土地を所有し、1944 年には更に 19 畝の荒地を開墾する予定であつた。農作業以外に、紡織などの副業を積極的に進めていた。また、抗属、荣誉軍人、貧しい農民の生産を手伝い、模範的な互助組を作り上げた⁷²。1944 年 3 月 24 日、屯留県農会は第一回県代表大会を開き、農会代表 210 人が出席した。三日目の会議において葛河堂が生産競争を提起した⁷³。沁県労働英雄郭滿仁がその挑戦に応じ、葛河堂に挑戦書を送った。彼は自分の生産に尽力した他、互助組を組織し、貧しい農民の生産を手伝い、政府と軍隊を擁護し、公糧をきちんと納めようとしていた⁷⁴。陽南五区においては、地域ごとに区レベルの労働英雄の選挙が行われた。女性労働英雄鄭小如が生産に尽力し、他人を助け、政府を擁護し、第一位の英雄に選ばれた。第二位は西交村の呉固生である。彼は豊富な農作業経験があるが、欠点が多くて特に人に対する接し方が下手なため、民衆に好まれず、互助組をもきちんと組織できなかった⁷⁵。

1944 年 12 月 10 日、四分区群英大会が開かれた。主席の郭専員は主席台に上がって遠くから来た英雄たちに敬意を表し、大会の目的は一年間の戦闘と生産の成果をまとめてその経験を交換することだと言及した。11 日から 13 日にかけて各英雄と模範工作者がグループに分かれて自らの戦闘と生産の成果と経験を報告した。英雄の選挙は 20 日に行われた。生産において、自主的結合と平等交換の原則によって大多数の民衆を互助組に組織し、政府と軍隊を支持し、法律と政策を守り、生産と戦闘を結合できる人が評価された。戦闘英雄は民衆の利益を守るために率先して敵と断固として戦い、規律

を守って技術を向上させ、政府を支持し、戦闘と生産を結合すべきであるとされた。民衆に英雄を印象づけるため、英雄に戦闘と生産の事績を改めて紹介させた。詳細な質疑応答、議論、比較などを経て、主席団が民兵戦闘英雄李士生、労働互助英雄薛秉乾などを選出した⁷⁶。

(3)太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会

太岳根拠地では一年間の戦闘と生産の成果を振り返り、経験をまとめ、生産と戦闘においてよい成績を収めた者を表彰し、全区労働英雄、戦闘英雄、模範工作者代表大会及び戦闘生産展覧会を定期的に行うと定めた。軍区と行署の規定によると、各種英雄代表は300人で、その内、労働英雄、戦闘英雄、模範工作者がそれぞれ150人、105人、45人とされた。展示内容は戦闘と農業生産を中心としていた⁷⁷。戦闘英雄が全体の3分の1以上を占めており、陝甘寧辺区の経験を導入しながらも、前線の独自性を維持していることがわかる。

1945年1月1日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会が開幕した。『新華日報』太岳版は、大会の様子を以下のように伝えている。英雄模範254人が出席し、一年間の成績を総括してその経験を宣伝した上で、今年の仕事を熱心に議論した。会場の前に白銀の円形アーチが立ち、左上には木彫りの騎馬姿の勇ましい殺敵英雄が見られ、右上には鋤を担いで大きな牛を駆る農民が微笑んでいた。それらは英雄たちの偉大な功績の永遠不滅を象徴していた。アーチをくぐると、毛沢東の大きな肖像画がすぐに目に入った。横には呉満有の像が掛けられていた。会場の中央に中華民国の国旗が高く掲げられている。主席台の上部にスターリン、毛沢東、朱徳などの指導者の大きな肖像画が見られ、その脇に民兵英雄と労働英雄の色鮮やかな版面の肖像画が飾られていた。主席台の左右には「労働者と農民は世界の創造者である」、「労働者は社会の主人である」という大きな対聯が書かれていた。

会場には大勢の人が集まり、その興奮と熱気は隅々まで行き渡っていた。12時になると太鼓と音楽に合わせて英雄たちが会場に入った。牛主任が新暦元旦を祝い、殺敵英雄、労働英雄及び模範工作者に敬意を表した。その後、英雄らが政府と軍隊への支持を表明し、生産と戦闘に尽力することを決意し

た⁷⁸。十数日間の議論と交流を経て、1945年1月19日の午後、「群英榜」が街に掲げられた。殺敵英雄31人、農業労働英雄25人、女性労働英雄6人、模範抗属1人、擁軍模範1人、模範女性幹部1人など合計99人が選出され⁷⁹、規定された人数を大幅に下回った。最後に、根拠地を拡大し、軍隊を訓練し、減租減息を実施し、民兵を発展し、組織してさらなる生産運動を展開する、という今年の任務が提起された⁸⁰。

(4)太岳根拠地の代表的な英雄

農業労働英雄に選ばれたのは薛秉乾、石振明、葛河堂などである。

石振明は元々河南省林県出身であり、煉瓦焼きを生業とし生活は貧しかった。1920年に旱魃に遭って家計が破綻し、山西省冀氏に辿り着き、妻と一緒に土地20畝を開墾して生活を維持し、1940年には浮山県に移住した。浮山県では、石振明は地主の荒地を借りて開墾し、20石の食糧を収穫し、小作料と国民政府軍への負担を納めると3石しか余らなかつた。1941年に抗日政府が成立して減租減息を呼びかけ、民衆の一年間の税金を免除し、また新たに土地を開墾するとその土地の税金を徴収しないと決定した。石振明は土地25畝を開墾して食糧30石を収穫し、0.6石の公糧を納めた。1942年の時点において、石振明の村では、耕地が304畝、一年間の収穫量が135.2石であるため、1畝当たりの生産量が0.4石である。石振明の耕地では1畝当たりの生産量が1.2石であり、村の平均生産量の3倍となった。1943年になると、中共の減租減息政策を通じて、石振明は小作地として開墾した土地の所有権を手に入れ、生産意欲が更に高まった。1943年、1944年の二年間において、石振明は荒地を更に55畝開墾し、97石の食糧を収穫した。彼は1944年に9戸、18人を組織し、前年より食糧345石を増産した。石振明は県群英大会に第一位の英雄に選ばれて牛一頭をもらい、村農会の執行委員を担っていた。1946年までに311戸（全村345戸、1,494人）が48個の互助組に組織された。これらは、男性互助組31個、241人、女性互助組17個、81人から成っていた。1945年の反攻と旱魃にも関わらず、自給自足が達成された⁸¹。葛河堂は1937年に河南林県から山西屯留に辿り着いた難民であり、生活は苦しかった。1943年の徹底的な減租政策によってようやく生活が改善されると、彼は積極的に増産の呼びかけに応じ、荒地を開墾したり肥料を施し

たりして生産を伸ばし、既に 235 畝の土地を所有する富裕中農になった。さらに土地を増やして人を雇い、富農になる可能性があった。また、彼は他人の生産を手伝って互助を組織し、互助大隊長を務めた。葛河堂の今後の発展の方向はまさに「吳満有式の富農の方向」であり、彼は自分の生産に尽力するだけでなく、互助を組織し、政府を擁護し、新民主主義社会の公民の模範であると報道された⁸²。

57 歳の韓金虎は民兵殺敵英雄に選ばれた。彼は趙城県出身であり、射撃の名手とされる。1944 年 10 月 3 日、敵が××村（原文伏字）に拠点を建てようとした際、韓金虎は敵を撃ち殺して彼らの銃弾を奪い、翌日には近くのカ村に行って食料を探す日本兵を殺した。一ヶ月の間に彼は 9 人の日本兵を射殺し、敵の計画を破綻させた⁸³。

趙金林(上述)、石振明、葛河堂の事績を見ると、三人とも陝甘寧辺区の労働英雄と同様に、互助を組織して全村の生産を促進したことがわかる。互助が英雄評価において一つ重要な基準だと考えられる。そして、他の根拠地と異なり、殺敵英雄が表彰されるのも太岳根拠地の特徴であり、1940 年からの群衆英雄運動を継承したものだと思われる。

4. 群衆英雄運動の終末

1945 年 8 月に日本が降伏し、日中戦争が終了した。その後、中共と国民政府との間には局地的な摩擦があったが、1946 年 6 月まで一時的な平和を維持した。その時期において、中共は引き続き英雄運動を行い、根拠地の建設に力を注いだ。

(1)日中戦争後の英雄選抜

1945 年元日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覽大会が開催され、石振明、葛河堂など代表的な英雄が選抜された。他の根拠地と異なり⁸⁴、太岳根拠地では英雄により新しい英雄を育成する方法を採用した。

石振明は 1945 年に男女労働英雄 10 人を育成した。彼は減租減息運動の検査に参加し、実際の仕事において、民衆に奉仕できる積極分子を探し、「新英雄主義」の精神(民衆に奉仕する新しい時代の英雄の精神)を宣伝した。運動

において、石振明は樊村の王徳栄、院頭村の胡徳林などを見出し、彼らとよく個別に話をして思想教育を行った。検査の終了後皆が互助組を組織して生産を始めた。王徳栄は樊村の互助大隊長に選ばれた。他の者も互助を組織して積極的に生産に参加した。彼らが問題にぶつかった時、石振明は彼らの代わりに問題を解決するのではなく、一緒に相談して解決方法を見つけ、実際の仕事を彼らに任せた。このようにして、新英雄の能力と威信を高め、よりよく民衆を組織して生産を推し進めた。石振明は民衆闘争において積極分子を探し、実際の仕事を通じて彼らの思想覚悟と能力を高め、春耕と夏鋤による生産成果を収めたとされる⁸⁵。

(2)富農経済の提唱

1920年代後半以降のソビエト革命期、中共は中農、貧農の權益を擁護して地主富農の封建的搾取を排除する土地革命に着手した⁸⁶。1930年代に深まる民族的危機に際して、中共は政策を変更し、1935年12月に「關於改変对付富農策略的決定」を発表して、富農を含めた農民統一戦線を形成すべきだと主張した⁸⁷。翌年7月、中共は「關於土地政策的指示」を提出し、富農の土地に手を付けず、地主の土地を没収して必要な土地と生産資料を再び地主に配分すると決定した⁸⁸。中共は富農経済を肯定しなかったが、その存在を認めたと考えられる。1937年2月に中共は「中共中央給中国国民党三中全会電」を発表し、地主の土地没収の停止を宣言し、地主の存在も認められた⁸⁹。

1940年代の陝甘寧辺区の労働英雄運動において、「吳満有の方向」が提起された。吳満有は1942年の時点で77垧の土地を所有して長工を雇い、中共の階級区分によると富農だと判断できる。その直後に「吳満有の方向」について疑問を提起した党员がいた。中共は吳満有が土地政策に恵まれて富農に上昇したが、彼が政府と軍隊を擁護して党员でもあり、従来の農民を搾取した富農と異なって「新富農」だと強調した。また、辺区全ての農民が生産に尽力し、雇農が貧農に、貧農が中農に、中農が富農に上昇することは発展の方向であり、いわゆる「吳満有の方向」だと指摘した⁹⁰。中共が新富農経済を提唱していることが分かる。

太岳根拠地においても1944年に「吳満有式の富農の方向」として労働英雄葛河堂が表彰された。ただし、当時の葛河堂はまだ中農であり、後に土地

を増やして手伝いを雇って富農に上昇できるとしている⁹¹。石振明は、1944年12月の報道で長工を雇っており、すでに富農であったことが指摘されているが、彼の顕彰の文脈は民衆に奉仕する「新英雄主義」というものであり、富農経営そのものが推奨されているわけではなかった。石振明の富農経営が大いに宣伝されるのは、1946年4月からであり、陝甘寧辺区と比べて遅れていた⁹²。1944年には太岳根拠地において減租減息及びその検査が行われており、この間富農経済は十分に提唱されず⁹³、戦後の平和な環境の中で、中共の方針が経済の発展に変更されたものと思われる。1946年の太岳区中央局生産会議では平和民主建設の段階に入り、生産の重要性が強調された。また、薄一波（晋冀魯豫中央局副書記）は新富農経済を發展させると呼びかけた⁹⁴。1946年4月23日の『新華日報』太岳版において、「走石振明的道路」という社論が掲載された。記事において、石振明は中共の政策の恩恵を受けて「翻身」（階級的圧迫から解放されること）できた農民であり、農民が豊かになるよいモデルだと指摘した。また、同記事では、石振明式の富農は減租減息政策によって開墾地の所有権を手に入れ、互助を通じて収入を増やし、更に土地を購入し、その土地を經營するために人を雇う必要があり、それは農村新式資本主義であり、将来の發展方向であり、その發展方向は提唱されるべきである、と主張された⁹⁵。

(3)土地改革の始まり

1946年6月、第二次国共内戦が勃発すると、中共は民衆動員のために土地改革を本格化させ、同年5月4日に「關於土地問題的指示或關於清算減租及土地問題的指示」（以下、「五四指示」）を發表した。同指示は、富農の土地に手を付けず、工商業ブルジョア階級に反対せず、中小地主に一定の配慮を払い、中農を味方にすることが提起されており、穩健な政策だといえる。しかし、劉少奇が起草した「五四指示」に対して毛沢東は不満を表した。毛沢東は、左傾政策の採用によって統一戦線に悪影響を与えるという劉少奇の憂慮を批判し、民衆を動員するために土地を均分しても構わないと指摘した。薄一波はその真意を理解して、9月下旬に開かれた幹部会議において、鬭争果実の分配が不合理で富農路線だと批判し、「翻身大検査」を展開した。それ以降の土地改革において、「五四指示」の規定を超えて富農の土地も分配され

た⁹⁶。このような状況下、8月以降の『新華日報』太岳版では新富農の宣伝がなくなり、土地改革に重心を変更し、群衆英雄運動にも言及されなくなった。

おわりに

従来の多くの研究では、労働英雄運動は陝甘寧辺区から始まり、各根拠地へ広がっていったことを前提としていた。しかし、筆者が旧稿で明らかにしたように、晋西北根拠地における労働英雄運動は独自の特徴が見られ、晋西北より不安定な状況にあった太岳根拠地の英雄運動は、陝甘寧、晋西北の二つの根拠地と比べて、群衆抗日英雄が重視されていた。1940年の掃蕩において、民兵であった葉炎明は一人の日本兵を殺して群衆英雄と評価され、葉炎明運動が展開された。葉炎明式の英雄は片手に鋤、もう片手に銃を持ち、揺るがず勇敢に根拠地を守る群衆英雄であり、農作業に従事するのみならず、必要な時に敵と戦うことが求められた。工業においても葉炎明式の労働者英雄が奨励されていた。1945年元日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覽大会が開催され、31人の殺敵英雄が表彰された。厳しい軍事状況に直面し、太岳根拠地では生産の発展を重視するのみならず、勇敢に敵と戦う抗日英雄が評価された。

また、女性が一部の県の区レベルで第一位の労働英雄に選ばれるなど、女性労働英雄の活躍が重視され、ゲリラ戦への協力が顕彰されることもあった。陝甘寧辺区では、1938年に先駆的に女性の農業労働英雄の顕彰が開始されており、1940年になると、政府、学校などの公的機関の女性が表彰する対象となり、農業における女性労働英雄は見られなくなった。その原因は中共が女性の生理的差異を配慮し始め、彼女らが開墾のような重い肉体労働でなく、室内の仕事を任されたという女性運動の方針の変更にあると考えられる。それに対して、太岳では男性労働力の減少により、女性が農業に従事せざるを得ないという状況があり、女性の農業参加が顕彰されていた。また、前線のため、女性のゲリラ戦の協力も評価された。

従来の研究の多くは1943年以降の大生産運動を神格化する毛沢東を中心とした歴史観の影響により、初期の延安における女性労働の重視や前線における群衆英雄運動を根拠地全体の運動の中に位置づけることができなかった。

戦時動員が女性の社会進出を促進することは、第一次世界大戦以降の先進資本主義国において認められるが⁹⁷、中共根拠地においてそれは男性に代わって女性が農作業やその他の生産に従事して戦争を支えるという形で進行したといえる。女性だけでなく、児童などの社会的弱者が生産に動員され、前線地域である太岳根拠地はまさに全民抗戦の様相を呈した。1943年に陝甘寧辺区は変工互助を中心として労働英雄運動を展開し、その影響を受けて太岳根拠地も労働英雄の互助を表彰し、延安の手法を導入した。

要するに、太岳根拠地の群衆英雄運動は陝甘寧辺区と異なり自らの特徴がある。1940年から1943年にかけて生産を発展させるために労働英雄の表彰も行われたが、抗日英雄である葉炎明運動を展開して全民抗戦を呼びかけた。1944年になると、延安の手法を導入し、陝甘寧辺区の労働英雄運動と合流したが、独自の特徴も維持し続けた。

このような継承関係は、延安大生産運動以前の前線の根拠地の経験も含む労働英雄運動の全体像を捉えることで理解することができるのである。

注

¹民主出版社編『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』華北新華書店、1947年、17頁。

²中共中央組織部等編『中国共産党組織史資料』第3巻(上)抗日戦争時期(1937.7-1945.8)、中共党史出版社、2000年、559-566頁。

³同上書、593頁。

⁴前掲『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』、18頁。

⁵「開展吳滿有運動」『解放日報』1943年1月11日、第1版。

⁶王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区劳模運動研究』中国社会科学出版社、2014年、王建華「革命的理想人格：延安時期労働英雄の生産邏輯」『南京大學學報：哲學、人文科學、社會科學』2016年第5期、韓曉莉「抗戰時期山西根拠地労働英雄運動研究」『抗日戦争研究』2012年第3期、王智「晋西北抗日根拠地労働英雄群体研究」山西大學修士論文、2011年、張基輝「中共重塑下的晋西北鄉村：「張初元模式」与鄉村權威 1940-1945」山西大學修士論文、2007

年、佐藤宏「陝甘寧辺区の農村労働英雄と基層指導部：延安期の大衆路線」『中国研究月報』第 432 号、1984 年。

⁷許淑賢「抗日戦争時期婦女紡織運動及其意義：以山西省武郷県為例」『婦女研究論叢』第 3 期総第 111 期、2012 年、王穎「走出家庭与鞏固家庭：抗日戦争時期陝甘寧辺区の婦女解放」『開放時代』2018 年 4 月、王微「樹典立英：華北抗日根拠地女労働英雄の形塑」『中華女子学院学報』第 5 期、2017 年 10 月。

⁸李芸「晋西北抗日根拠地における労働英雄運動：陝甘寧辺区辺区との比較を中心に」『史学研究』第 310 号、2021 年、1-20 頁。

⁹中華人民共和国成立後、「労働英雄」の呼称は「労働模範」に変更された。1950 年 9 月 25 日に北京で全国戦闘英雄代表会議及び全国工農兵労働模範代表会議が開かれ、戦闘英雄、労働模範が顕彰された。

¹⁰「社論：春耕到了，大家動員起来吧！」『太岳日報』1941 年 3 月 15 日、第 1 版。

¹¹「村春委会應該作些什麼？」『太岳日報』1941 年 4 月 10 日、第 4 版。春耕組は村の春耕組織、春耕委員会は基層幹部から構成される委員会と考えられる。

¹²「沁県擬定春耕標準 増產糧食兩万石」『太岳日報』1942 年 4 月 6 日、第 2 版。

¹³「迎接五四青年節 七区青年開始整風」『太岳日報』1942 年 4 月 21 日、第 2 版。

¹⁴「本区軍民三千追悼殉難忠烈」『太岳日報』1942 年 4 月 3 日、第 2 版。李某、杜某の二人とも原史料の文字が一文字不明。

¹⁵「行署公布春耕獎勵弁法」『太岳日報』1943 年 2 月 25 日、第 4 版。

¹⁶「工救区分会規定労働規律六条」『太岳日報』1941 年 7 月 27 日、第 1 版。

¹⁷「工農業生産展覽會雙十節举行」『太岳日報』1941 年 9 月 18 日、第 2 版。

¹⁸『太岳日報』では「葉彦明」と記載されているが、『沁源県史』と『沁源県党史資料』第 3 集では「葉炎明」と表記されている。戦時の不安定な状況において、情報の伝達が難しく、誤記の可能性があるため、建国後の安定した環境において作られた資料はより信憑性が高いと考え、「葉炎明」にした。

¹⁹「中央關於在山東、華中發展武装建立根拠地的指示」（1940 年 1 月 28 日）中央档案館編『中共中央文件選集』12（1939-1940）、1991 年、252-254 頁。

²⁰山西省沁源県史志弁公室『沁源県党史資料』第 3 集、山西省沁源県史志弁公室、75-82 頁。

- ²¹ 「社論：創造葉彦明式的群衆英雄！」『太岳日報』1941年4月6日、第1版。
- ²² 「綿上三区開展葉彦明運動」『太岳日報』1941年4月21日、第1版。
- ²³ 「社論：記念五一節」『太岳日報』1941年4月30日、第1版。原文は「一手拿着斧頭，一手拿着武器」である。斧は手工業者が使う道具であり、近代的工業のない日中戦争期の社会状況に適応したものと考えられる。
- ²⁴ 山東根拠地の状況については、馬場毅『日中戦争と中国の抗戦：山東抗日根拠地を中心に』集広舎、2021年、第7章を参照。
- ²⁵ 「中央革命軍事委員会關於抗日根拠地軍事建設的指示」（1941年11月7日）前掲『中共中央文件選集』13（1941-1942）、212-214頁。
- ²⁶ 「沁県空前集會民兵千人檢閱」『太岳日報』1941年7月15日、第1版。
- ²⁷ 「社論：打破旧觀念」『太岳日報』1942年4月3日、第1版。
- ²⁸ 前掲李芸論文。
- ²⁹ 「群英大会明日举行」『太岳日報』1941年12月9日、第2版。
- ³⁰ 「靈石举行群英大会」『太岳日報』1941年12月12日、第2版。
- ³¹ 「震動全区的葉彦明式群英会」『太岳日報』1941年12月18日、第2版。
- ³² クリフォード・ギアーツはインドネシアジャワ島の農業事情を分析した際に、インボリユーションに言及している。1870年から1940年間のジャワ島では、農業人口が増え続け、労働集約的な投入が行われたが、生産量はそれほど上がらなかった。一方、同時期の日本では、工業化の発展と急速な都市化により、農業人口がほとんど増加せず、肥料の投入や機械化を伴い、以前3倍の生産量を得るようになった。ギアーツは日本と比べ、インドネシアの農業が質的な変化を伴わず、インボリユーションが発生したと指摘した（クリフォード・ギアーツ著、池本幸生訳『インボリユーション：内に向かう発展』NTT出版株式会社、2001年、172-182頁）。黄宗智はさらに議論を一步進め、インボリユーションが農業近代化を妨げたと指摘した。家族の余剰労働力はほぼ無償で労働集約的な農業生産に投入され、乏しい土地の生産量を最大化することが求められる。これは農業賃金の低下をもたらしたが、1畝当たりの生産量が高まり、労働力を節約する農業機械化を拒むと考えられる（黄宗智「農業内巻と官僚内巻：類型、概念、経験概括、運作機制」『中国郷村研究』第18輯）。
- ³³ 黄宗智『華北の小農經濟与社会変遷』中華書局出版、1986年、193-202頁。
- ³⁴ 鄧穎超、孟慶樹「關於陝甘寧辺区婦女運動概況的報告」（1938年5月18日）『婦女運動的理論与实践』1939年、219-220頁。

- ³⁵前掲『延安市婦女運動志』、145頁。
- ³⁶「模範婦女名單」『新中華報』1940年3月29日、第5、8版。
- ³⁷李富春「生産運動總結与新的任務」（1940年2月18日）陝甘寧辺区財政經濟史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政經濟史料摘編』（8）生産自給、119-120頁。
- ³⁸陳学昭『延安訪問記』北極書店、1940年、310頁。
- ³⁹「關於各抗日根拠地目前婦女工作方針的決定」（1943年2月26日）羅瓊編『婦女運動文献』東北書店、1948年、1-3頁。
- ⁴⁰前掲許淑賢論文。
- ⁴¹張瑋、王瑩「華北及陝甘寧抗日根拠地女性英模的生活」『安徽史学』2016年第5期。
- ⁴²「沁源県抗戦時期各種損失調査表」（1946年8月）、中央党史研究室、中央档案馆編『抗日戦争時期中国解放区人口傷亡和財産損失档案選編』3、中共党史出版社、2015年、847頁。
- ⁴³「晋冀魯豫辺区太岳行署關於抗戦損失的調査統計」（1946年7月5日）同上書、830-832頁。
- ⁴⁴「大批婦女英雄湧現在武装民主生産戦線上」『太岳日報』1941年3月15日、第1版。
- ⁴⁵呂美頤、鄭永福「近代中国：大変局中的性別關係与婦女」杜芳琴、王政主編『中国歴史中的婦女与性別』天津人民出版社、2004年、492-293頁。引用元：柳勉之、李静之「解放区婦女支前参戦情況」『婦運史研究資料』1985年第3期。
- ⁴⁶「綿上婦女兒童卷入春耕中」『太岳日報』1941年4月27日、第2版。
- ⁴⁷鄭永福、呂美頤『近代中国婦女与社会』大象出版社、2013年、5頁。
- ⁴⁸「春耕線上 勞働英雄榜」『太岳日報』1941年5月12日、第1版。
- ⁴⁹「努力生産学習本領趙淑英家庭社会地位提高」『新華日報』太岳版、1944年5月28日、第2版。
- ⁵⁰「十八歳少女胡讓牛当选頭名勞働英雄」『新華日報』太岳版、1944年5月7日、第2版。
- ⁵¹「女英雄胡讓牛」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第6版。
- ⁵²衛階、張文俊「抗日戦争時期沁源県の参軍動員」『山西高等学校社会科学学报』第30卷第8期、2018年。
- ⁵³中共は女性解放というスローガンを利用して女性を戦争のために動員していた。1942年の延安整風運動以前では、女性が家を離れて社会生活に参加す

べきだと呼びかけた知識人がいたが、整風運動以降になると、それらの知識人がブルジョアとして批判されるようになった。根拠地の社会の安定のため、「走出家庭」（家庭から出る）より「鞏固家庭」（家庭を強固にする）の方が強調されるようになった。女性が紡織などの労働で現金収入を得たが、その支配権が限定され、女性解放は限定的なものとしかえないのである（趙超構『延安一月』上海書店出版社、1992年、171-174頁、張文燦『解放的限界』中国政法大学出版社、2013年、275頁、286頁、287頁）。

⁵⁴ 「春耕線上労働英雄榜」『太岳日報』1941年5月12日、第1版。

⁵⁵ 「行署公布春耕奨励弁法」『太岳日報』1943年2月25日、第4版。

⁵⁶ 「十三歳小女孩当選労働英雄」『新華日報』太岳版、1944年8月1日、第3版。

⁵⁷ 「金榜題名」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第4版。

⁵⁸ 「模範抗属劉秀英」『新華日報』太岳版、1946年1月19日、第4版。

⁵⁹ なお、後方の陝甘寧辺区においても、出征兵士がおり、模範抗属が評定されていた。1943年1月15日に辺区政府は「關於擁護軍隊的決定」を發表し、抗属を生産に動員して模範的な抗属を表彰すると決定した。（「關於擁護軍隊的決定」（1943年1月15日）陝甘寧辺区財政經濟史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政經濟史料摘編』9 人民生活、532頁）。

⁶⁰ 兵員を補充して拡大編成された連の連長である。

⁶¹ 「榮譽軍人王金柱一個人開荒二十畝」『新華日報』太岳版、1944年4月7日、第3版。

⁶² 丸田孝志「人民に奉仕する身体：中華人民共和国成立前夜の華東榮譽軍人学校における兵士の生活」、笹川裕史編『現地資料が語る基層社会像：20世紀中葉東アジアの戦争と戦後』汲古書院、2020年、31-62頁。

⁶³ 王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区劳模運動研究』中国社会科学出版社、2014年、28-30頁。

⁶⁴ 岳謙厚は1943年11月に陝甘寧辺区に開かれた労働英雄大会が中共根拠地で最初のものであると指摘したが、晋西北では1942年に既に第一回の労働英雄大会を開催している（岳謙厚『辺区的革命（1937-1949）：華北及陝甘寧根拠地社会史論』社会科学文献出版社、2014年、106-107頁）。

⁶⁵ 前掲李芸論文。

⁶⁶ 陝甘寧辺区財政經濟史編写組、陝西省档案館編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政經濟史料摘編』7 互助合作、陝西人民出版社、1981年、30-40頁。

⁶⁷ 房成祥、黄兆安主編『陝甘寧辺区革命史』陝西師範大学出版社、1991年、

182-183 頁。

⁶⁸毛沢東『組織起来』1949年、1-7 頁。

⁶⁹趙元明編『陝甘寧辺区の労働英雄』1946年、128-137 頁。

⁷⁰「模範黨員和労働英雄申長林同志」『解放日報』1944年1月28日、第2版。

⁷¹「馬家溝和陈德發」『解放日報』1944年1月2日、第2版。

⁷²「經過全家討論後安澤状元擺擂台」『新華日報』太岳版、1944年4月1日、第3版。

⁷³「農代大会上挑起生産比賽 葛河堂大戰衆英雄」『新華日報』太岳版、1944年4月13日、第2版。

⁷⁴「沁县労働英雄郭滿仁書信向葛河堂挑戰」『新華日報』太岳版、1944年5月4日、第2版。

⁷⁵「陽南五区労働英雄競選熱烈」『新華日報』太岳版、1944年11月19日、第2版。

⁷⁶「四分区群英会慎重選舉」『新華日報』太岳版、1945年1月1日、第2版。

⁷⁷「檢閱一年生産戰鬪成績 本区定期召開群英大会」『新華日報』太岳版、1944年11月1日、第2版。

⁷⁸「太岳軍区的空前盛典」『新華日報』太岳版、1945年1月11日、第1版。

⁷⁹「金榜題名」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第1版。

⁸⁰「群英大会連續三天總結去年成果提出今年任務」『新華日報』太岳版、1945年1月25日、第1版。

⁸¹太岳行署編『發展新式富農經濟向石振明看齐』1946年、6-12 頁。

⁸²「社論：向労働英雄葛河堂看齐」『新華日報』太岳版、1944年4月10日、第2版。

⁸³「神銃手：老套筒」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第7版。

⁸⁴前掲李芸論文。

⁸⁵「石振明怎樣培養新英雄」『太岳日報』1945年8月7日、第4版。

⁸⁶「中華蘇維埃共和国土地法令」（1931年12月1日）前掲『中共中央文件選集』7（1931）、777-781 頁。

⁸⁷「党中央關於改变对付富農策略的決定」（1935年12月6日）前掲『中共中央文件選集』10（1934-1935）、583-588 頁。

⁸⁸「中央關於土地政策的指示」（1936年7月22日）前掲『中共中央文件選集』11（1936-1938）、57-59 頁。

⁸⁹「中共中央給中国国民党三中全会電」（1937年2月10日）中央檔案館編『中国共產党關於西安事变档案史料選編』中国档案出版社、1997年、376 頁。

- ⁹⁰ 「關於吳滿有方向問題」『解放日報』1943年3月15日、第1、2版。
- ⁹¹ 「社論：向勞働英雄葛河堂看齐」『新華日報』太岳版、1944年4月10日、第1版。
- ⁹² 「石振明買地百多畝 雇長工三個變成富農」『新華日報』太岳版、1944年12月15日、第2版。
- ⁹³ 「太岳区 1945 全区工作方針計画提綱」（1945年）、山西省史志研究院『太岳抗日根拠地重要文獻選編』中央文獻出版社、724-725頁。
- ⁹⁴ 「太岳区 1946 年生産工作方針与計画」（1946年）太岳革命根拠地農業史編写組『太岳革命根拠地農業史資料選編』山西科学技術出版社、1991年、282-288頁。
- ⁹⁵ 「社論：走石振明的道路」『新華日報』太岳版、1946年4月23日、第1版。
- ⁹⁶ 智効民『劉少奇与晋綏土改』秀威資訊科技、2008年、49-56頁。中共の1933年の文件によると、搾取収入が年間総収入の15%以上（特殊な事情があれば30%）を占める場合には富農であると規定していた（香港新華分社編『怎樣分析階級』中国出版社、1949年、1-9頁）。薄一波が鬭争果実の分配が不合理であることを富農路線であると指摘したのは不可解であるが、彼は意図的に富農の定義を曖昧にすることで富農經濟の提唱を棚上げしたのではないかと考えられる。
- ⁹⁷ 杉村使乃「工場と戦場における女性—第二次世界大戦下のイギリスにおける女性の戦時奉仕」『敬和学園大学研究紀要』（15）2006年、167-187頁、林田敏子『戦う女、戦えない女：第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』人文書院、2013年、加納実紀代『女たちの〈銃後〉』筑摩書房、1987年。